

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]
作成日 平成 20年 10月 7日

【評価実施概要】

事業所番号	0771000171		
法人名	株式会社エコ		
事業所名	グループホーム天神		
所在地	〒964-0865 福島県二本松市杉田町一丁目2-1 (電話) 0243-22-8171		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんなゆうビル302号室		
訪問調査日	平成20年9月25日	評価確定日	平成20年10月20日

【情報提供票より】(平成 20年 7月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 11月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人
職員数	16人	常勤	16人, 非常勤 0人, 常勤換算 12.2人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建ての 1 ~ 2階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	9,000円(2月~10月) 12,000円(11月~3月)
敷金	有(円) ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	○ 有(19,950円) 無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,200円

(4) 利用者の概要

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	2名	要介護2	6名		
要介護3	5名	要介護4	4名		
要介護5	0名	要支援2	1名		
年齢	平均 84.3歳	最低	75歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	安斉内科胃腸科医院、安斉歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道4号線に近く交通の便が良い場所で、事業所のまわりは田んぼに囲まれており、静かな生活環境にある事業所である。この事業所では、利用者が役割を持ち、持っている力を活かしながら生活することを大切にしており、職員が寄り添いながら買い物、畑仕事、洗濯、散歩等、利用者の希望に合わせて行えるようになっている。また、管理者が職員の育成(自主勉強会の開催や外部研修会への積極的な参加)とヒヤリ・ハット等事故対策に力を入れて取り組んでいるため、事業所のサービスの質の向上につながっている。さらに、法人内の近隣の事業所2ヶ所へ呼びかけ、事故対策会議を毎月開催し、職員の交流のために研修旅行も合同で開始した。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 昨年の評価で取り組みが必要だと判断された「災害対策」「地域密着型サービスとしての理念」の項目は、備蓄を準備したり、理念の作り直しを行い改善した。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者から自己評価の意義を説明し、職員が分担して作成し、全員で検討しながら作成した。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5) 運営推進会議は2ヶ月に1回定期的に開催されている。事業所行事や外部評価等の報告をし、事故発生に関することや利用者や職員の状況を説明している。事故発生に関する内容については、毎回、委員から活発に意見が出され、対応策の具体的な内容まで話しあっている。運営推進会議が事業所のサービスの質の向上に大きく貢献している。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 毎月、担当職員から家族へ手紙を書き、利用者の様子を伝えている。そのため、遠方の家族からは手紙で要望事項が送られてくることもある。また、運営推進会議に出席している家族代表から出される意見や事業所来訪時に聞き取った家族の願い等を事業所の運営に反映させるよう取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 毎月の行事にボランティアを受け入れたり、避難訓練へ地域消防団の協力を依頼したり、地域の行事に利用者と参加し、さらに、事業所の行事に地域の人達を招いたり、地域とはいろいろな形で関わり連携が取られている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年度の外部評価で取り組みを期待したい項目となり、職員全員で意見を出し合って地域密着型サービスの役割を反映した理念に作り直した。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日常の業務の中で折に触れ、管理者から職員へ理念を掘り下げて伝えたり、来訪者にも分かる場所に掲示し、職員間で理念が共有されている。サービス提供の場において理念を具体化し実践できるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	グループホームへ入居前の友人が訪ねて来たり、地域行事へ利用者と共に参加したり、事業所の行事に地域の人が参加してくれたりし、地域との双方向の交流がされている。近所の方からボランティアの協力申出があり、定期的に日舞観賞が行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者が評価の意義を伝え、各職員が分担し原案を作成し、それを基に職員で検討し作り上げた。また、前年の外部評価の結果を基に職員で改善について検討し、非常災害時の備蓄等準備されるようになった。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、計画的に開催し、事業所からの説明、報告等を基に委員から活発に意見が出されている。出された意見を取り入れ改善をし、運営に活かしている。委員は、地域包括支援センター長、地区区長、民生委員、利用者家族等に依頼している。利用者が参加することもある。		
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1度、担当職員が、手紙で利用者の様子、病院等受診の報告をし、会報誌で事業所の行事、家族への連絡事項等を伝えている。職員の異動については、担当者が家族の来訪時に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	遠方の家族からは手紙で要望等を受けたり、家族来訪時に意見等言いやすい雰囲気を作り、個別に聞き取っている。家族からの要望等は職員間で検討し対応している。結果についても家族に伝えている。		今後は、些細な意見や要望の対応結果までを記録として残していくようにされればさらに良いと思われる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はほとんどない。新しい職員を採用した場合は、約1ヶ月の指導期間を設け、利用者の思いや状況等を新しい職員も共有できるようにし、さらに、馴染みの職員が利用者へのダメージを少なくするよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の立場や経験に応じた勉強会を実施したり、半年に1回は全職員が外部研修会や講演会に参加できるよう配慮している。職員の資格取得には勤務調整をしたり、取得後には手当などで評価している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福島県認知症グループホーム連絡協議会には加入していないが、近くにある法人内事業所3ヶ所で毎月、事故対策会議を開催し、対応等検討している。また、研修旅行なども合同で行い、同業者等との連携、交流を通じて質の向上への取り組みを行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)	/		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が今までの生活歴で身につけた力や特技を発揮できるよう、職員と一緒にいるながら畑仕事、洗濯物干し等がされている。一緒に行う中で職員も利用者からいろいろなことを教えてもらっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の支援の中で職員は利用者に寄り添うことを一番大切にしており、利用者の言葉、思いを聞き取りやすい環境となっている。聞き取った言葉等は、そのまま記録されている。毎日の生活の中で利用者の体調変化や希望を確認しながら、買い物、散歩、ドライブ等の支援をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式の一部を利用し、本人の言葉、思いを記録し、利用者本位の介護計画を作成している。毎月のケア会議で問題、課題を検討しながら作成している。しかし、残念なことに家族の意向を把握するタイミングが介護計画を作成してからになっているため、家族の意向に変化があった際に介護計画に反映できていない。	○	今後は、介護計画を作成する前に利用者と家族の意向を把握し、職員間で解決すべき課題を検討し作成することが必要だと思われる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	実際のケアの場面において、職員は利用者本位に対応しているため、利用者の思いの変化にも気づくことが出来る。職員の気づき、利用者の状態の変化に応じて介護計画を変更し、現状に即した新しい計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は入居前の主治医の受診を継続しており、家族が付き添う場合も職員は同行し、医師との連携を図っている。家族が同行しない場合は診察状況を電話や手紙で知らせている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所の終末期の看取り等に関しては、事前確認書により利用者や家族の意向を確認している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の個人情報については、使用に関わる同意書をもらい、職員は取扱いに留意し、誓約書を提出している。居室にはトイレもあり、羞恥心に対する配慮も職員は意識して対応している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者一人ひとりのペースを大切にし、希望を聞きながら、タバコも晩酌も制限せず、健康面に配慮しながらサポートしている。この事業所では利用者と職員のコミュニケーションを大切にし、支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	敷地内にある手入れの行き届いた畑で、季節の野菜が収穫できるため、利用した献立が多く出される。基本的な献立はあるが、誕生日などには本人の希望を聞き対応している。ゆっくりでも自力で食事をしてもらい残存能力の保持に努めている。利用者からは調理当番の職員に、「美味しいね」と声かけられることが多い。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	感染症を予防するために、お湯もその都度取替え、消毒をし、一人ひとりゆっくりと入浴してもらうようにしている。入浴介助に関わる職員の人数や、介助負担から考慮し、入浴回数や時間帯が限られている。	○	利用者のペースで暮らせるよう職員が寄り添い支援しているために、入浴支援が3日に1回のペースになっている。今後は、希望があれば毎日でも対応できるよう検討されることを望む。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	利用者が積極的に手伝ってくれることは、役割としてお願いしている。本人の得意なことをしてもらっており、職員は手伝ってもらったことに感謝の気持ちを言葉で伝えている。この事業所に来て、役割を持つことで、状態がとても落ち着いてきた利用者があるとのことである。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	事業所全体のバス旅行も季節ごとに行なっている。外食も半年に一度は行なうが、個人的に買い物や外食を希望する利用者には対応している。また、散歩が好きな利用者にはほぼ毎日対応している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室も玄関も施錠はしていない。外出したいと思われる時には、職員も一緒に付いて行くことにしている。畑の仕事が得意な利用者は一日に何回も畑へ出て、作業をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災に対する避難訓練は消防署立会いで行なっている。備蓄についても整っている。今後は、夜間の訓練を地元の消防団にも参加してもらい、行なうことを予定している。		夜間は特に近隣の応援が必要となることから、連絡方法などを話し合っておくことも大切になると思われる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者のコンディションに合わせて無理の無い量を盛り付けており、残す方も少ない。水分を取る事に気づくように声をかけをしている。栄養面については管理栄養士に基本の献立を作成依頼している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室で過ごすよりも共用空間のテレビを見たり、トランプや歌を歌うなど、利用者同士で時間を過ごしている方が多い。畳のスペースには掘りごたつもあり、天気がよければ玄関前のベンチで過ごすこともできる。部屋は明るく季節の花も活けられている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使いなれた筆筒などもあり、それぞれの思いのこもった居室となっている。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム天神

記入担当者名 藤戸 末子

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。